

中小企業のため
のAI・デジ
タル化推進



デジタル化を推進する中小企業は年々成長し、業務効率化による平均20%のコスト削減を実現しています。

中小企業の成長率

デジタル化を進める中小企業の成長率は年々増加しており、2022年の市場調査では、導入企業の70%が業務効率の向上を実感しています。

コスト削減効果

デジタル化の推進により、中小企業は平均して20%のコスト削減を達成しています。特に業務の自動化やデータ管理の最適化が主要な要因となっています。

デジタル化の遅れにより中小企業が直面する競争力低下、コスト増大、非効率性の課題について述べます。



コストの増大

手作業による業務が増えることで、人件費や材料費が上昇し、全体の運営コストが増大します。結果として、利益率が低下し企業の財務健全性が損なわれます。



競争力の低下

デジタル化の遅れにより、中小企業は競争他社に対して劣位となり、新たな市場参入や顧客獲得が困難になります。これにより、持続可能な成長のチャンスを失います。



非効率性の増加

手作業や紙ベースのプロセスはミスや遅延を引き起こし、全体の業務効率が低下します。これは、迅速な意思決定や対応が求められる現代のビジネス環境では重大な問題となります。

kintoneとAI導入、自動化技術で中小企業の業務効率が飛躍的に向上し、競争力を強化します。

kintoneの一元管理

AI導入のメリット

自動化技術の活用

資料の外注はコミュニケーションが大変…



デジタルツールの導入でコスト削減と業務効率化がどのように実現されたかを示します。

01

kintone導入の効果

ある中小企業では、kintoneを導入することで手作業のデータ管理を自動化し、年間で約30%のコスト削減を実現しました。現場作業の効率が飛躍的に向上しました。

02

AI在庫管理システム

他の企業では、AIを活用した在庫管理システムの導入により、在庫の過不足を予測し、効率的な在庫管理が行えました。これにより棚卸しの頻度とコストが大幅に削減されました。

デジタルツールの活用により、中小企業は市場変動に対応し、新たなビジネスチャンスを創出できます。

01

市場変動への対応

デジタルツールを導入することで、リアルタイムのデータ分析が可能となり、市場変動に迅速に対応できるようになります。これにより、業務効率が向上し、売上の減少を防ぐことができます。

02

新ビジネスチャンスの創出

AIや自動化技術を活用することで、新たなビジネスモデルやサービスの開発が可能になります。これにより、競合他社との差別化が進み、持続的な成長が期待できます。

田中氏は「デジタル化は必須であり、競争力の維持と成長が見込める」と強調しています。

01

デジタル化の必要性

田中氏は、デジタル化が企業の競争力を維持するためには不可欠であると述べています。これにより、効率的な業務プロセスが可能になります。

02

成長の見込み

デジタル化により競争力が向上するだけでなく、新しいビジネスの機会や市場の拡大も見込まれています。田中氏はこれが中小企業にとって大きな利点であると強調しています。

デジタル化推進のために、業務プロセスの見直し、kintoneやAIツールの導入、定期評価を実施しましょう。

01

業務プロセスの見直し

現行の業務プロセスを徹底的に分析し、デジタル化可能な部分を特定することで、効率性を高めます。見直しから始めましょう。

02

kintoneやAIツールの導入

業務の効率化と精度向上を目指して、kintoneやAIツールを導入し、プロセスの自動化とデータ管理を一元化しましょう。

03

効果の定期評価

デジタル化施策の効果を定期的に評価し、必要に応じて改善することで、持続的な業務改善と競争力の向上を図ります。

AI・デジタル化の専門家との相談を通じて、最適な導入戦略を立てましょう。



相談のメリット

専門家のアドバイスによって、現行業務の効率化やコスト削減の具体的な方法が見つかります。また、最新技術の導入がスムーズに進みます。



次のステップ

まずは現状の課題を整理し、デジタル化が必要な部分を特定します。次に、専門家と具体的な計画を立て、実際の導入とその効果を評価します。